

2025 年度 鈴鹿医療科学大学大学院
医療科学研究科 医療科学専攻 臨床心理学分野
第 I 期入学試験問題

受験番号：_____ 氏名：_____

* 各ページ上部の所定の欄にも受験番号を記入してください。

問題 1

以下の①～⑤の用語について簡潔に説明しなさい。

① チャムシップ (chumship)

出題の意図

発達心理学に関する基本的な概念。同年代の他者との関わり方の発達を理解しているかどうかを問うもの。

解答例

児童期から思春期の過渡期にあたる前思春期（9歳～11歳）に見られる、同性同年輩との親密な友人をチャム（chum＝親友）といい、その関係をチャムシップ（chumship）という。子どもから大人への健全な精神発達の上で重要であるとして、米国の精神科医サリヴァンによって提唱された。お互いを模倣し類似点を確認し、相手のことが自分と同等かそれ以上に思える愛他的な友人関係である。

② ワトソン (Watson, J.B.)

出題意図

心理学の発展の歴史において行動主義における重要な人物。従来の心理学の手法への批判と行動観察との差異を理解していることを確認する問題。現代の行動療法に続く理論背景という知識も問う。

模範解答

米国の心理学者。行動主義の提唱者。それまでの内観（insight）の手法や意識、無意識を対象とする方法を批判し、『行動主義宣言』（1913）において心理学は自然科学の一分野として、客観的観察が可能な行動を対象とするべきと主張した。白いものへの恐怖感情の般化を実証したアルバート坊やの学習過程の実験が有名。現在まで続く行動療法の祖となった。

③ 内的作業モデル（ワーキングモデル）

出題意図

幼児期から形成される愛着関係を基盤に、その後の自己認識や対人関係形成にも関わる発達心理学の重要概念の理解を問う。

模範解答

乳幼児期からの愛着（アタッチメント）形成の結果、愛着対象との間の内在化された情緒的絆が、対人関係の基盤となる。ボウルビィ（Bowlby, J.）の愛着理論において、提唱された。外界との対象関係における行動予測や表象、行動選択、自己認識に関わり、成人期に至るまで外界と他者との関係および、自己への信頼感や自己効力感に影響を及ぼす。およそ一貫して安定的だが、ライフイベントや介入によって変化することもある。

④ ハーズバーグ (Herzberg, F.) の動機づけ理論

出題の意図

産業・組織心理学に関する基本的な知識を問うために出題した。職務満足の要因と職務不満足の原因は異なる次元上にあること、中心概念である動機づけ要因と衛生要因について述べられていることが期待される。

解答例

2 要因仮説または「動機づけ－衛生理論」とも呼ばれ、職務満足の原因と職務不満足の原因は異なる次元上にあるとする考え方である。

職務満足は自己実現や精神的な成長を求める欲求の充足から得られる。具体的には、達成、承認、仕事そのもの、成長の可能性、責任、昇進の6 要因であり、これらは「動機づけ要因」と呼ばれる。

一方、職務不満足は、会社の政策と経営、作業条件、監督－技術、対人関係、給与、地位、職務保障、個人生活の8 要因からなる。これらはたとえ充たされても、不満を防ぎ、不快の一時的な解消をもたらすのみで、これらは「衛生（保障）要因」と呼ばれる。

⑤ グリーフワークにおける4つの課題（Worden, J. W.）

出題の意図

公認心理師試験出題基準・ブループリントにおける「⑫発達-(5)高齢者の心理社会的課題と必要な支援-喪失と悲嘆」、「⑮心理に関する支援-(2)訪問による支援や地域支援の意義-終末期ケア（グリーフケアを含む）」、「⑰人体の構造と機能及び疾病-(2)心理的支援が必要な主な疾病-終末期ケア（グリーフケアを含む）」に関する知識を問う問題。

解答のポイントは、遺族が取り組むべきこととして Worden が提唱した4つの課題を説明できること。

解答例

- ・ 喪失の現実を受け入れる。（他：喪失の事実を受容する。）
- ・ 悲嘆の苦痛に向き合う。（他：悲嘆の苦痛を処理する。）
- ・ 故人のいない環境に適応する。（他：故人のいない世界に適応する。）
- ・ 故人を情緒的に再配置し、新しい生活に力を注ぐ。（他：新たな生活を歩む中で、故人との持続するつながりを見つける。）

問題2

事例概要を読み、以下の各問に回答しなさい。

事例概要

25 歳女性 A さん。持続的な気分の落ち込みを主訴として、恋人に連れられるかたちで心療内科クリニックを受診。通院を続けていたが事態に改善はみられず、本人からの希望もあり、主治医から公認心理師に心理療法の依頼がなされた。主治医からの申し送りでは、

高校卒業後に職を転々としていたこと、短期間で交際相手が変わっていること、交際相手との関係のなかでは充足感が長続きせず些細なことでも不満に感じられ、そうした気持ちを解消するために手首や腕を傷つけるなどの自傷行為をしてしまうようだといたことが伝えられた。

問1 Aさんの呈している状態と関連すると考えられる診断名を一つ挙げ、その特徴と本事例が関連すると考えられる理由について述べなさい(200字～300字)。

出題の意図

公認心理師・臨床心理士として、臨床実践を行う際には境界性パーソナリティ障害の傾向のあるクライアントのアセスメントならびに対応方法に関する知識が求められるため、疾患概念の基本的な理解を問う意図での出題を行っている。

解答例

Aさんには境界性パーソナリティ障害の特徴との合致が認められる。境界性パーソナリティ障害には見捨てられ不安や理想化とこき下ろし、分裂、投影性同一視といった、特異な認知や防衛機制の多用、慢性的な空虚感や抑うつ気分、対人関係の不安定さ、更には自傷行為などの危険な行動化が伴う。Aさんにおいては職場や恋人との関係継続の困難、慢性的な抑うつ気分が認められる。恋人との関係においても、交際当初は理想化で満たされるが、その時期を過ぎると不快が生じ、それを自傷行為で解消し、新たな交際相手を求めるといったパターンにあると推測される。以上から、Aさんは境界性パーソナリティ障害に該当する可能性を考える必要がある。(300字)

問2 Aさんとの心理療法に向けた初回面接を行う際に特に重視して聴き取る必要がある内容について、その理由も含めて述べなさい(300字～400字)。

出題の意図

公認心理師・臨床心理士として、臨床実践を行う際には境界性パーソナリティ障害の傾向のあるクライアントのアセスメントならびに対応方法に関する知識が求められるため、不安定なアタッチメントや対人関係上の過去のトラウマが及ぼす影響に関する理解を問う意図での出題を行っている。

解答例

Aさんとの初回面接においては発達早期からの生育歴を重視して聴き取るとともに、虐待などの心的外傷体験の有無についても注意を向けていく必要があると考える。境界性パーソナリティ障害では、その形成にかかる要因として、発達早期の不適切な養育が関係すると考えられており、アタッチメント形成の基盤となる親との関係性が大きな要因になると想定されている。また、生育歴のなかで家族からの虐待行為などによる外傷体験の被害も境界性パーソナリティ障害の重要な要因となり得ることも想

定されている。以上のことから A さんとの初回面接においては生育歴と心的外傷体験について注意深く聴き取っていく必要があると考えられる。また、また、A さんにおいては頻回の自傷行為もみられることから、自殺リスクの評価を行う必要がある。具体的には自傷行為の頻度や重篤性の評価に加え、現在における希死念慮の有無についても慎重に確認をすることが求められる。(400 字)

問 3 A さんと継続的に心理療法を行っていく場合の留意点について、その理由も含めて述べなさい(300 字～400 字)。

出題の意図

公認心理師・臨床心理士として、臨床実践を行う際には境界性パーソナリティ障害の傾向のあるクライアントのアセスメントならびに対応方法に関する知識が求められるため、安定した心理療法過程を進めていくための治療構造や枠組みなどに関する理解を問う意図での出題を行っている。

解答例

A さんとの初回面接においては発達早期からの生育歴を重視して聴き取るとともに、虐待などの心的外傷体験の有無についても注意を向けていく必要があると考える。境界性パーソナリティ障害では、その形成にかかる要因として、発達早期の不適切な養育が関係すると考えられており、アタッチメント形成の基盤となる親との関係性が大きな要因になると想定されている。また、生育歴のなかで家族からの虐待行為などによる外傷体験の被害も境界性パーソナリティ障害の重要な要因となり得ることも想定されている。以上のことから A さんとの初回面接においては生育歴と心的外傷体験について注意深く聴き取っていく必要があると考えられる。また、また、A さんにおいては頻回の自傷行為もみられることから、自殺リスクの評価を行う必要がある。具体的には自傷行為の頻度や重篤性の評価に加え、現在における希死念慮の有無についても慎重に確認をすることが求められる。(400 字)

問題 3

下の英文を読んで、以下の問 1～2 に答えなさい。

Background

Caring for a child with a developmental disability may affect parents' mental health. There are few longitudinal or nationally representative studies, none on new mental health problems. Studies have few young children, and few adult children.

Objective/hypotheses

We hypothesized that parents of children with developmental disability would be more likely to develop mental health problems than other parents.

Methods

We used the Panel Study of Income Dynamics (PSID, 1997–2017) and its Child Development Supplements, defining developmental disability by diagnoses such as autism spectrum disorder or intellectual disability, and requiring additional evidence of lasting impairment. We linked children’s and parents’ data spanning 20 years, including 44,264 mental health measurements for 4,024 parents of 7,030 children. Discrete-time hazard analysis controlled for child and parent characteristics.

Results

About 9.4% of children had developmental disability. Parents of children with developmental disability were more likely to develop mental health problems than other parents. The odds of developing anxiety or depression were higher when an adult child with developmental disability lived independently, nearly 3 times higher for mothers (OR 2.89, CI 2.33–3.59) and more than twice as large for fathers (OR 2.35, CI 1.70–3.26). Compared to fathers whose children did not have developmental disability and challenging behaviors, the odds of psychological distress were over 7 times larger (OR 7.18, CI 5.37–9.61) for those whose children had developmental disability and challenging behaviors.

Conclusions

Parents of children with developmental disability may benefit from increased emotional support, respite, and interventions addressing challenging behaviors.

註) OR: オッズ比; CI: 信頼区間

出典 : Hoyle, J. N. et al. (2021). Mental health risks of parents of children with developmental disabilities: A nationally representative study in the United States. *Disability and Health Journal*. Vol.14, 2. <https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S1936657420301527>.

問1. この研究論文の仮説の部分を読み、和訳しなさい。

出題の意図

心理学関連の研究論文の英文抄録を読み、仮説の部分を読み、正しく理解できているかどうかを問うもの。

解答例

筆者らは、発達障害を持つ子どもの親は、そうではない親よりも精神衛生上の問題を抱えやすいという仮説を立てた。

問2. 仮説を踏まえながら、本研究の結果を簡潔にまとめなさい。

出題の意図

心理学関連の研究論文の英文抄録の概要を読み、正しく理解できているかを問うもの。

解答例

調査の結果、対象者の子どもの9.4%に発達障害が見られた。①母親では、成人して独立して暮らしている発達障害のある人の母親は、そうではない母親の約3倍、父親については2倍、不安またはうつ病

を発症しやすかった。また、②父親については、子どもに発達障害と挑戦的行動（対応の難しい行動）が見られる場合には、そうでない父親の7倍以上、心理的苦痛を感じていた。